



# 双日株式会社の概要と事業活動のご紹介

**双日株式会社**  
(証券コード 2768)

## ● 本日のトピックス

---

☑ 双日について

☑ 双日の事業

☑ 双日の業績動向と中期経営計画

☑ 双日の配当方針

# ● 双日の理念

## グループ・スローガン



*New way, New value*

「双日グループスローガン」は、双日グループの意思や姿勢を社会に対して簡潔な言葉として発信し、社会とのコミュニケーションを促進するメッセージと位置づけられるものです。

社員一人ひとりが、これまでの常識にとらわれない自由な発想で考え、新たな価値を社会に実現していくことを宣言しています。

## 企業理念

双日グループは、誠実な心で世界の経済や文化、人々の心を結び、新たな豊かさを築きつづけます。

## 行動規範

1. 第一にお客様の成功を考えよ。
2. いかなるときも誠実を忘れるな。
3. お客様の現場のその先を見よ。
4. 従来のやり方にとらわれるな。
5. つねにリスクを見極めよ。

# ● 双日の歴史

## 双日株式会社

2004年4月、それぞれ100年以上の歴史を持つ、ニチメンと日商岩井が合併して、双日が誕生しました。新しいビジネスと価値を創造する総合商社として、全世界で幅広いビジネスを展開しています。



## ニチメン

1892年(明治25年)

綿花の扱いからスタート  
現在のオリックス、ヤマザキナビスコ等を設立

## 日商岩井

### 日商(鈴木商店)

1877年(明治10年)

砂糖の輸入商として創業  
現在の神戸製鋼所、帝人、IHI等を設立

### 岩井産業

1862年(文久2年)

舶来雑貨商として創業  
現在の日新製鋼、関西ペイント、富士フィルム等を設立

## ● 数字で見る双日グループ

☑ 世界約**50カ国**で事業を展開

☑ 海外に**88拠点**

☑ 国内外に約**450社**のグループ会社

☑ 従業員数 約**16,100人**

(2013年9月30日現在)

全世界をカバーするグローバルネットワークのもと  
展開する機能型総合商社



## ● 数字で見る双日グループ 株式編

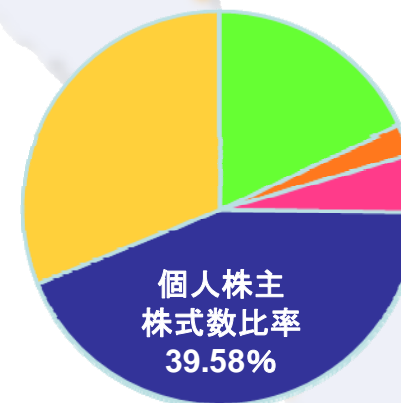
☑ 株式発行数 1,251,499,501株

☑ 株主数 178,000名

☑ 個人株主数比率 98.89%

☑ 個人株主  
株式数比率 39.58%

株式数比率



個人株主のみなさまは当社大切なステークホルダーであり、  
今後も株主説明会など、  
個人株主のみなさまへのIR活動を実施して参ります。

## ● 本日のトピックス

---

☑ 双日について

☑ 双日の事業

☑ 双日の業績動向と中期経営計画

☑ 双日の配当方針

# ● 双日の営業部門

## 機械



自動車本部



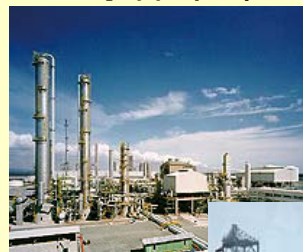
船舶・宇宙航空本部



インフラプロジェクト・  
産機本部

化学品本部

## 化学



ライフサイエンス  
事業開発室



環境資材本部

## エネルギー・金属

石炭・原子力本部

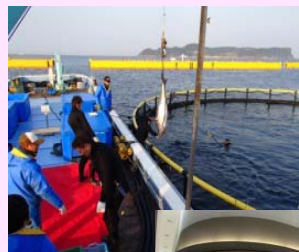
エネルギー本部



鉄鋼・金属資源本部

## 生活産業

農林資源本部



食料本部



コンシューマーサービス・  
開発建設本部





## ● 機械 発電事業

総発電容量  
6,785MW

今年度サウジアラビア、オマーンにて3件完工  
優良なパートナーと共に長期安定収益を確保

- 機械 自動車事業

自動車販売台数 年間約12万台


経済成長が著しいASEAN、ロシアNIS、中南米等で事業強化  
機械部門の収益の中核を成す

- エネルギー・金属 石炭事業

石炭取扱数量2,200万トン  
総合商社トップクラス

権益の独自操業を行い、良質な炭鉱開発を実施  
発電需要が増加する新興国にも販売を拡大

- エネルギー・金属 レアメタル事業



## レアメタルの双日 対日安定供給体制を構築

ニオブの世界トッププロデューサーCBMMに出資  
トレードでも高い取扱シェアを持つ

- 化学 マリンケミカル事業

工業塩  
年間供給量220万トン



国内輸入量の2割を取り扱う  
アジア・中東市場の需要増加に備える

- 化学 メタノール事業

## 東南アジア3大メタノール 製造拠点の一つ

成長市場であるアジアにてお客さまから高い評価  
伸びゆく市場で更なるプレゼンスの強化を図る



## ● 生活産業 海外工業団地



## ● 生活産業 化成肥料事業

# 東南アジアで高度化成肥料No.1

東南アジアでの長い経験と高いマーケットシェアー  
高いブランド信用力で需要家・農家へ販売

**ĐIỂM TRÌNH DIỆN NPK VIỆT NHẬT**  
- NPK (15 - 15 - 15)  
- NPK (16 - 8 - 14 - 12S)

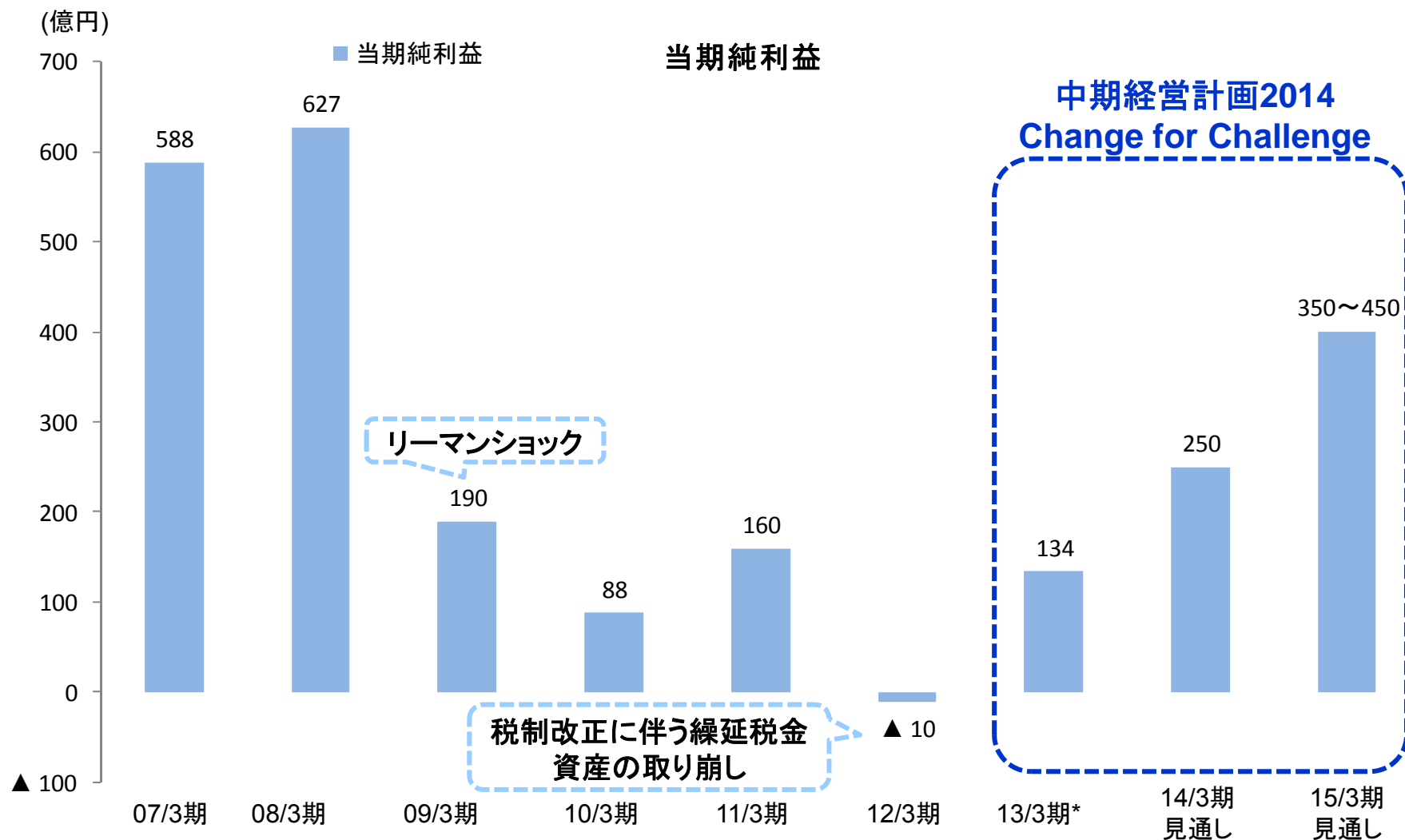


## ● 本日のトピックス

---

- ☑ 双日について
- ☑ 双日の事業
- ☑ 双日の業績動向と中期経営計画
- ☑ 双日の配当方針

# ● 双日の業績(当期純利益)推移



(\*) 当社は2013年3月期より従来の日本基準に替えて、国際会計基準(IFRS)を任意適用致しました。そのため、比較年度となる12/3期分より、IFRSベースの当期純利益を記載しております。

# ● 財務指標の推移

## 10年間で財務指標は大幅に改善

	04/3末	13/9末	補足
自己資本	3,162億円	4,276億円	株主に帰属する純資産 10年間で大幅に資本が積み増しされた
自己資本比率	10.3%	19.7%	総資産に対する自己資本の割合 自己資本の積み増しにより増加。
ネット有利子負債	15,571億円	6,163億円	有利子負債総額から現金及び預金を差し引いたもの。 10年間で返済を行い、大きく減額。
ネットDER	4.9倍	1.4倍	ネット有利子負債を自己資本で割って算出し、負債への依存度の高低を見るもの。低い方が負債への依存度が低く、財務安全性が高い。 自己資本の積み増し、有利子負債の返済に伴い、10年間で約1/4に低下、財務の健全性が強化された。

# ● 中期経営計画2014 - Change for Challenge -

さらなる飛躍に向けた新たな挑戦を果たすため、自らを変革し続けていく  
この強い信念をもって、企業価値の向上を目指す

## 成長軌道に向けた改革の推進

資産の質を改善し、稼ぐ力を強化

成長のための投資継続(集中事業領域へ戦略配分)

創造性、効率性、高度なリスクマネージカを持って事業展開ができる体制・組織の構築

グローバル化が加速する経済環境でも戦い抜ける事業モデルの変革と強い人材の育成

## 自己資本の積み上げによる財務基盤拡充

企業価値の向上、さらなる飛躍へ

- 中期経営計画2014 -資産効率の向上-

集中事業領域への傾斜配分

経営資源の創出

個別事業・資産の  
保有意義再評価による  
資産の入れ替え

資金効率の向上

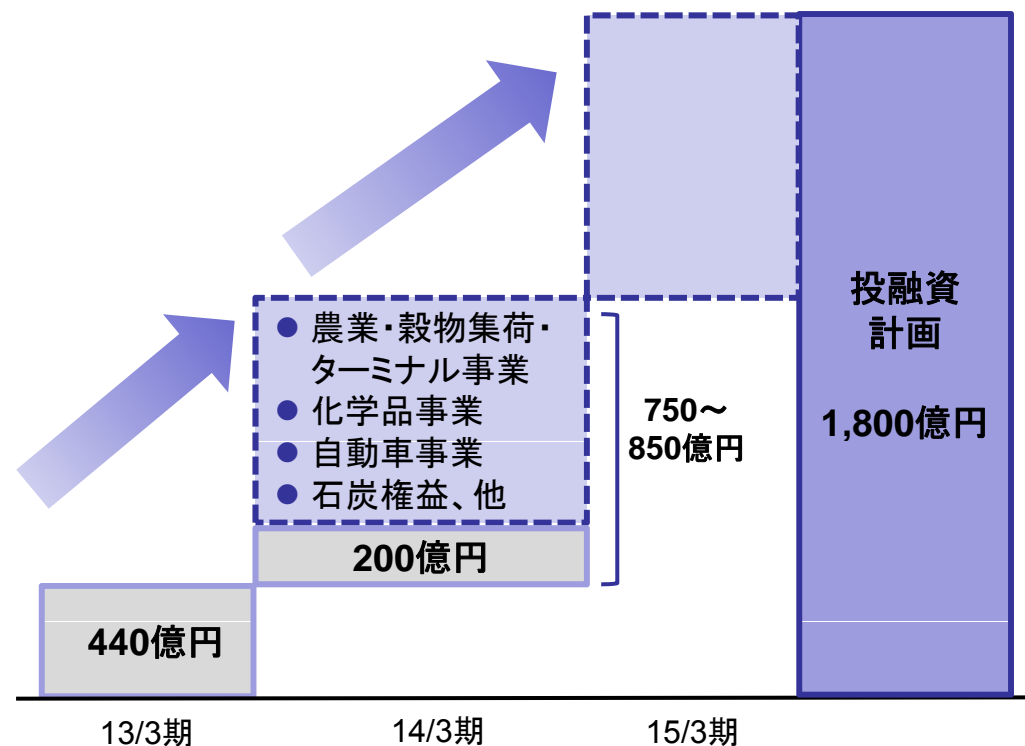
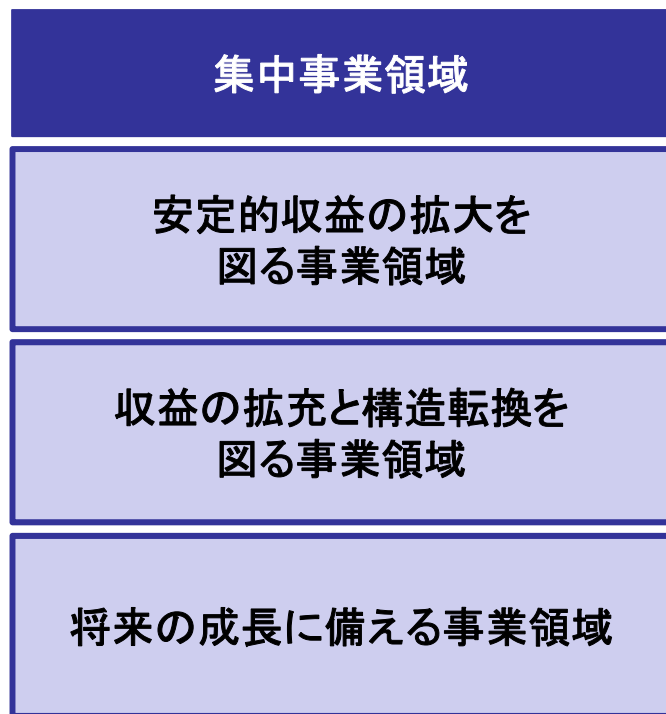
総資産 2兆円規模を維持しながら、資産の質と効率性向上を目指す

# ● 中期経営計画2014 — 投融資計画 —

投融資を加速させていく一方で、資産の入れ替えを継続し資産の質を改善

- 集中事業領域を中心にアジア、アフリカ、南米等の新興国の優良案件へ投融資を実行
- 環境変化にスピーディーに対応する体制で、柔軟に投融資を推進
- 中期経営計画期間中での収益積み上げを加速

現行中計期間中の投融資イメージ



# ● 中期経営計画2014 - 主な新規投融資案件 -

## 太陽光発電事業

価格・期間が固定された  
長期売電契約の締結により、  
安定収益ポートフォリオを構築

- ・青森県上北郡六ヶ所村、北海道斜里郡、愛知県知多郡、熊本県球磨郡の4ヶ所にて、総事業費約350億円、パネル容量合計106メガワットのメガソーラー(大規模太陽光発電)事業に参入
- ・順次着工、運転開始後、20年間に亘り税込価格42円/kWhで売電契約を締結
- ・双日の既存事業であるドイツミックスドルフ太陽光発電事業とあわせ、再生可能エネルギー発電事業の基盤構築を目指す



(ドイツ ミックスドルフ太陽光発電事業)

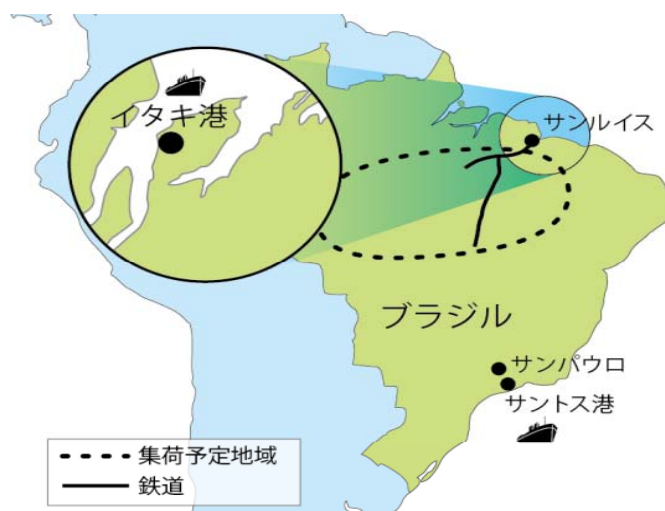


# ● 中期経営計画2014 - 主な新規投融資案件 -

## 農業・穀物集荷・ターミナル事業



(CGG社港湾ターミナル完成図)



南米・アジア間の農業・穀物  
バリューチェーンを拡充し、  
1,000万トンの穀物取扱いを目指す

・15万haの農地を保有、年間200万トンの穀物集荷を行うCGGグループに出資

・ブラジル北部イタキ港の使用により、同国の長期滞船問題を解消、アジアまでの航行距離の短縮により競争力を確保

・ASEAN域内最大規模の穀物専用港を有するベトナム製粉事業会社等アジアで展開する事業と結び付け、2020年までに双日グループ全体で1,000万トンの穀物取扱いを目指す



## ● 本日のトピックス

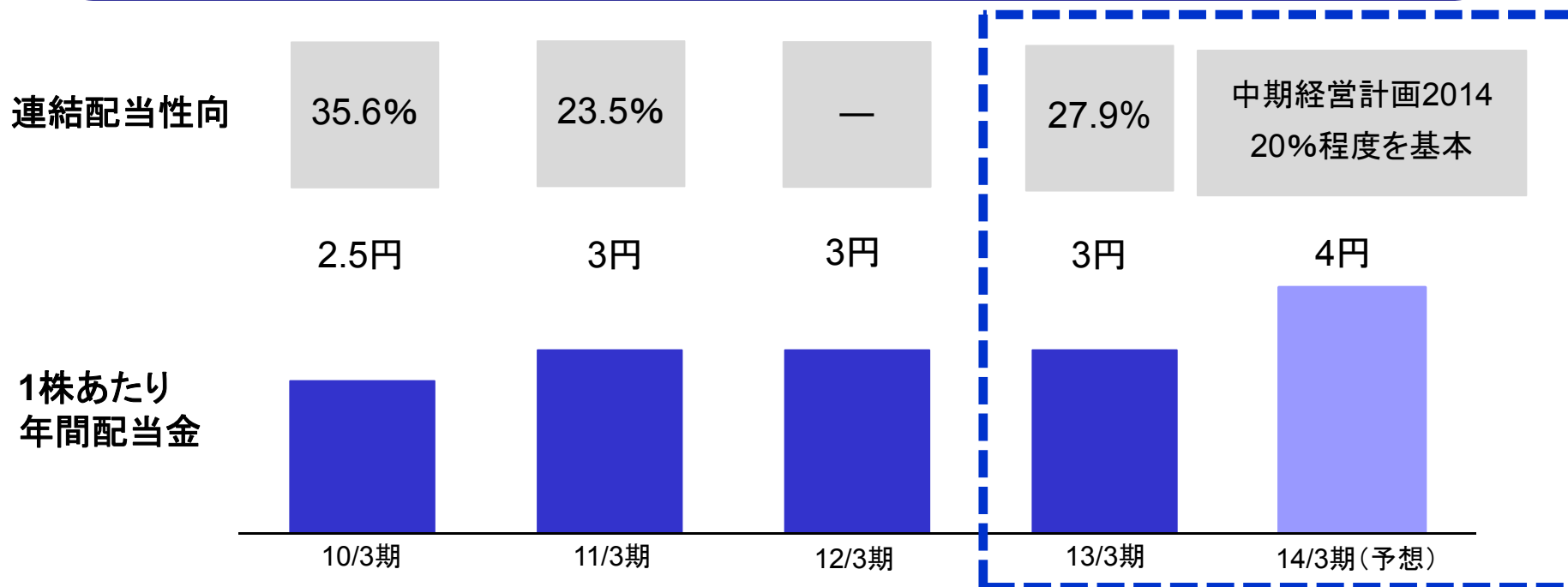
---

- ☑ 双日について
- ☑ 双日の事業
- ☑ 双日の業績動向と中期経営計画
- ☑ 双日の配当方針

# ● 配当政策

## 配当に関する基本方針

安定的かつ継続的に配当を行うとともに、内部留保の拡充と有効活用によって企業競争力と株主価値を向上させることを経営の重要課題のひとつと位置付けております



(注) 連結配当性向につきましては、IFRSにおいては当期純利益(当社株主帰属)をベースに、期末発行済普通株式数にて算定しております。

---

# 【 補足資料 】

## ● 会社概要

(2013年9月30日現在)

設立： 2003年4月1日

資本金： 1,603億39百万円

代表者： 代表取締役社長 佐藤 洋二

従業員数： 単体=2,264名 連結=16,136名

上場証券取引所： 東京証券取引所(証券コード 2768)

事業年度： 4月1日から翌年3月31日まで

配当受領株主確定日： 中間=9月30日 期末=3月31日

## ● BS推移(国際会計基準)

(億円)	11/4/1 移行日	12/3末	13/3末	13/9末
総資産	21,701	21,907	21,501	21,655
自己資本	3,463	3,300	3,826	4,276
リスクアセット (自己資本対比)	3,300 (1.0倍)	3,300 (1.0倍)	3,400 (0.9倍)	3,400 (0.8倍)
流動比率(%)	149%	143%	152%	164%
長期調達比率(%)	77%	73%	76%	80%
自己資本比率(%)	16.0%	15.1%	17.8%	19.7%
ネット有利子負債	6,972	6,764	6,433	6,163
ネットDER(倍)	2.0倍	2.0倍	1.7倍	1.4倍

## ● PL推移(国際会計基準)

(億円)	12/3期 実績	13/3期 実績	13/9期 実績
売上高 (日本基準)	43,217	39,345	20,022
売上総利益	2,171	1,872	995
営業活動に 係る利益	575	255	213
税引前利益	585	281	263
当期純利益 (当社株主帰属)	▲10	134	140
基礎的収益力	658	385	291
(ご参考)			
ROA	▲0.0%	0.6%	—
ROE	▲0.3%	3.8%	—

# ● 機械部門

## 機械部門

自動車本部



完成車輸出、現地組立製造販売、  
自動車卸・小売事業等

インフラプロジェクト  
産機本部



電力、プラント、産業機械、  
再生可能エネルギー事業等

船舶・  
宇宙航空本部



ボーイングなどの民間機代理店事業、  
船舶事業等

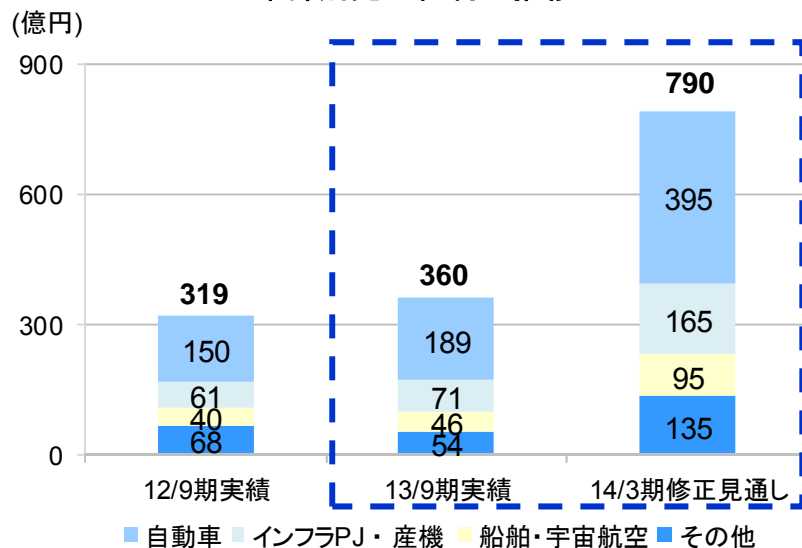
産業情報部



各種データセンターサービス、  
スマートグリッド関連事業等

# ● 機械部門

本部別売上総利益推移

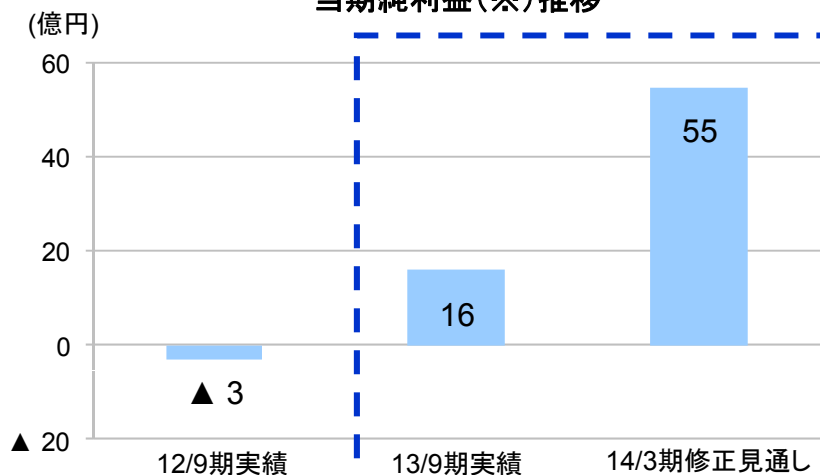


## 今期の見方

当期純利益(※)13/9期実績 16億円(期初見通し55億円⇒変更なし)

- 自動車  
海外の自動車事業が堅調に推移
- インフラプロジェクト・産機  
足元の進捗が順調。下期もプラント案件の計上を見込む
- 船舶・宇宙航空  
海運市況が引き続き低迷しており、厳しい進捗

当期純利益(※)推移



## 13/9期決算実績(補足)

(億円)

	12/9期実績	13/9期実績	14/3期修正見通し
売上総利益	319	360	790
営業活動に係る利益	35	43	-
持分法による投資損益	15	17	-
当期純利益(※)	▲ 3	16	55
総資産	-	4,160	-

(※)当社株主帰属



# ● エネルギー・金属部門

## エネルギー・金属部門

エネルギー本部



原油、天然ガス、LNG等

石炭・原子力本部



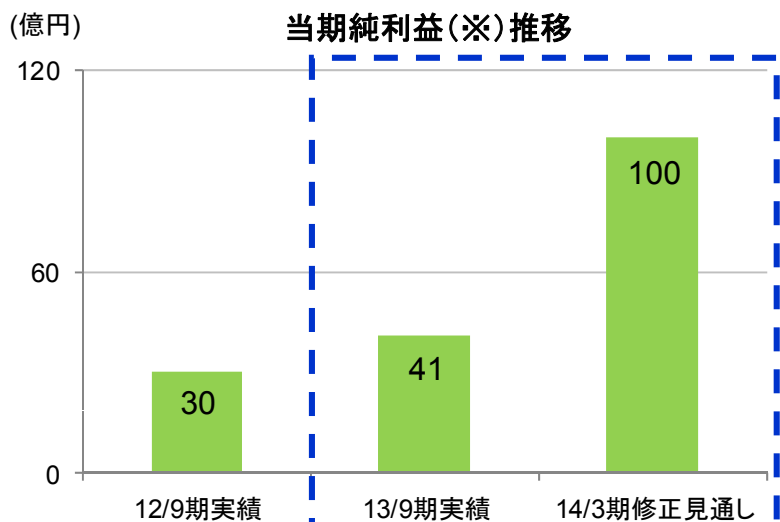
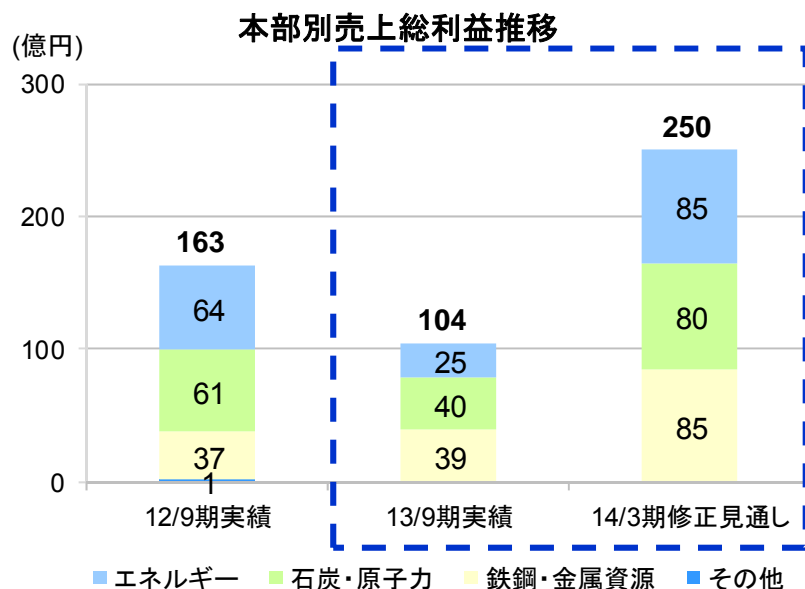
石炭(電力用一般炭、PCI炭、原料炭)、  
原子力関連機器事業等

鉄鋼・金属資源本部



モリブデン、ニオブ等のレアメタル、  
鉄鉱石、鉄鋼製品、  
アルミナ等の非鉄金属等

# ● エネルギー・金属部門



## 今期の見方

当期純利益(※)13/9期実績 41億円(期初見通し160億円⇒修正見通し100億円)

- エネルギー  
エネルギー権益関連での費用増加等により、見通しを修正
- 石炭・原子力  
石炭市況が軟調な中、販売数量増加やコスト削減効果等により堅調に推移
- 鉄鋼・金属資源  
金属資源の価格低迷等により、見通しを修正

## 13/9期決算実績(補足)

(億円)

	12/9期実績	13/9期実績	14/3期修正見通し
売上総利益	163	104	250
営業活動に係る利益	37	▲ 14	-
持分法による投資損益	38	67	-
当期純利益(※)	30	41	100
総資産	-	5,696	-

(※)当社株主帰属

# ● 化学部門

## 化学部門

### 化学品本部



メタノール、溶剤、液体ケミカル、  
ブタジエン、樹脂・合繊原料等

### 環境資材本部



レアアース、リチウム、工業塩、  
液晶ディスプレイ関連素材、炭素繊維等

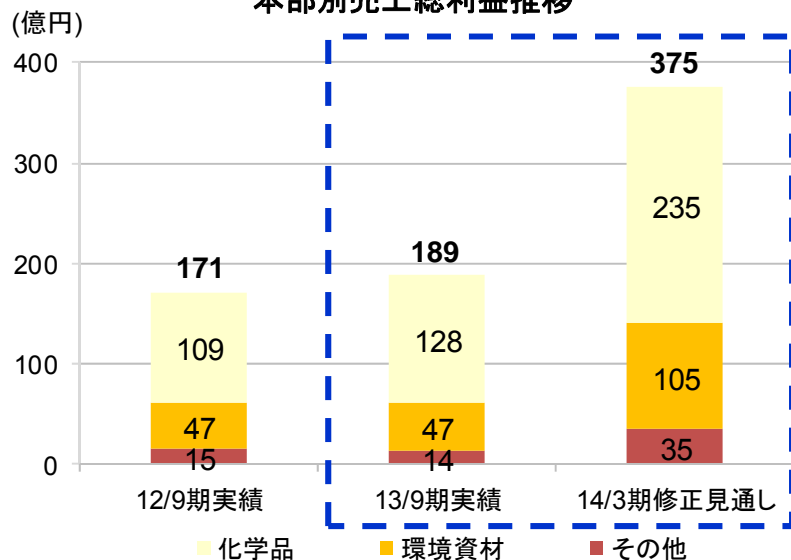
### ライフサイエンス 事業開発室



農薬原料・中間体・製品の輸出入、  
医薬品原料・中間体・製品の輸出入、  
化粧品企画開発販売等

# ● 化学部門

本部別売上総利益推移

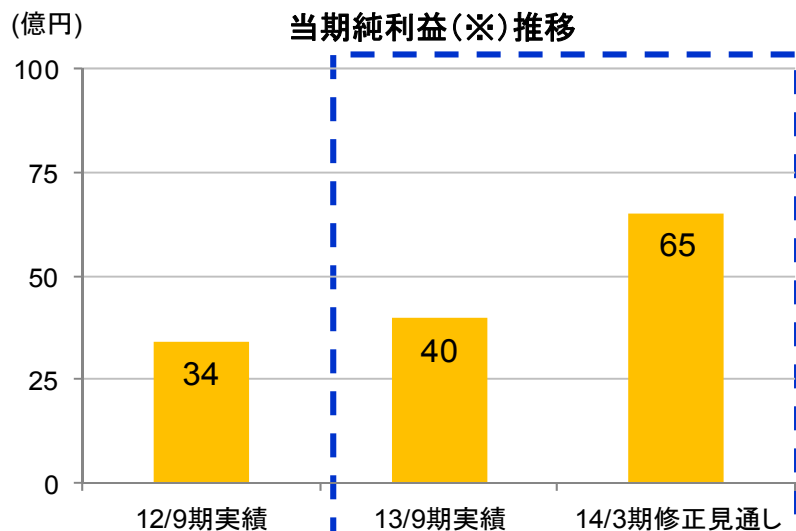


## 今期の見方

当期純利益(※)13/9期実績 40億円(期初見通し55億円⇒修正見通し65億円)

- 化学品  
アジア地域での化学品関連取引の堅調な推移等により、見通しを修正
- 環境資材  
一部商品の需要減退はあるも、円安の影響もあり概ね見通し通りの進捗

当期純利益(※)推移



## 13/9期決算実績(補足)

(億円)

	12/9期実績	13/9期実績	14/3期修正見通し
売上総利益	171	189	375
営業活動に係る利益	52	70	-
持分法による投資損益	5	3	-
当期純利益(※)	34	40	65
総資産	-	2,690	-

(※)当社株主帰属

# ● 生活産業部門

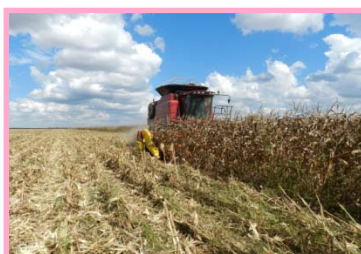
## 生活産業部門

### 食料本部



穀物飼料事業(小麦、大豆、米、牧草等)、  
食料事業(砂糖、コーヒー、水産品等)

### 農林資源本部



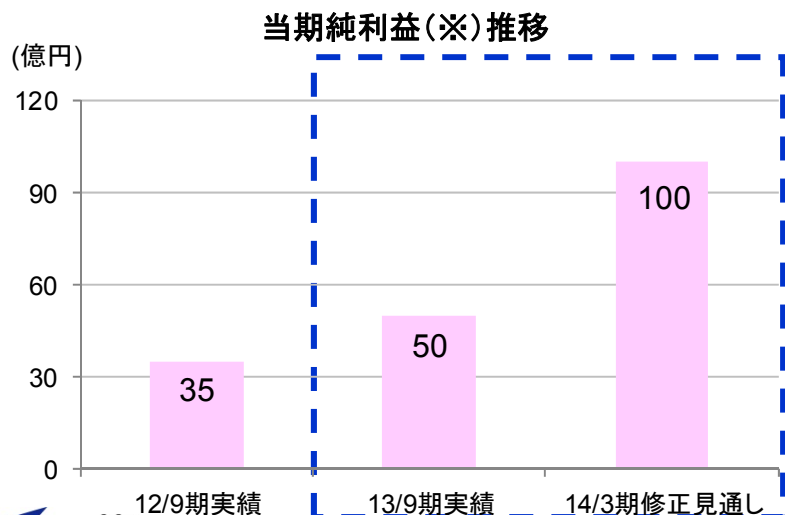
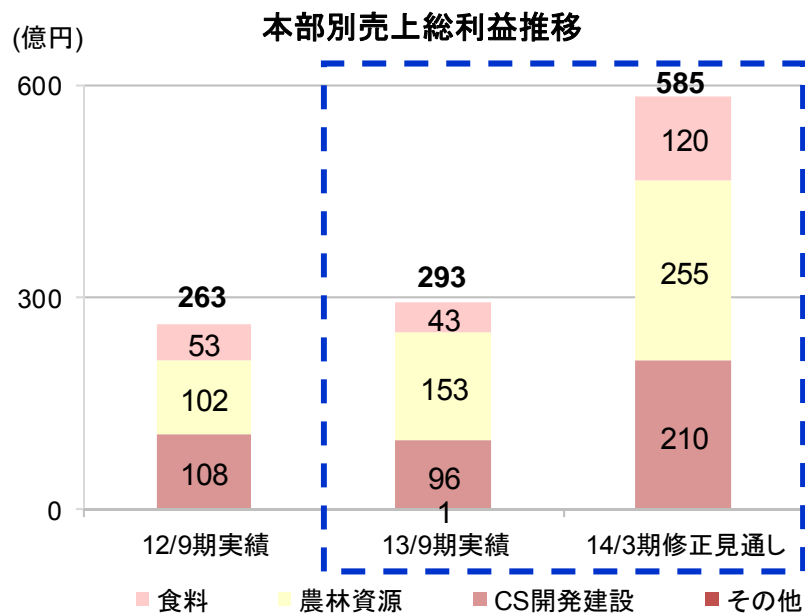
農業事業、高度化成肥料の生産・販売、  
海外での植林、チップの生産事業

### コンシューマーサービス・ 開発建設本部



生活雑貨ブランド事業、  
JALUXとの空港リテール事業、  
OEM事業、海外工業団地開発・運営事業

# ● 生活産業部門



## 今期の見方

当期純利益(※)13/9期実績 50億円(期初見通し85億円⇒修正見通し100億円)

- 食料  
下期での取扱数量増加を見込む
- 農林資源  
海外肥料事業が好調、木材取引も堅調に推移し、見通しを修正
- コンシューマーサービス・開発建設  
海外工業団地事業を中心に堅調な推移を見込む

## 13/9期決算実績(補足)

	12/9期実績	13/9期実績	14/3期修正見通し
売上総利益	263	293	585
営業活動に係る利益	79	93	-
持分法による投資損益	8	17	-
当期純利益(※)	35	50	100
総資産	-	4,360	-

(※)当社株主帰属



***sojitz***

***New way, New value***